

ブロッコリーの大花^ら蕾生産に向けた適品種の選定及び栽植密度

ブロッコリーの加工業務用品種として、「おのころ」「こんにちは」「こんばんは」を選定した。また、標準的な栽植密度の約1.3倍の密植により、10a当りフローレット^{*}収量は高くなった。

内 容

加工業務用ブロッコリーは、価格の安い輸入品が大半を占める。一方で国産品を求める声は多いが、輸入品に対抗するためには、収量性を高める必要がある。そこで、秋冬どり作型において、フローレット加工時の収量が高い品種及び栽植密度について検討した。

2020年、農業技術センター場内圃場^ほにおいて、早晩性の異なる20品種を供試し、市場出荷よりも大きい花蕾径15cm以上に達した時点で収穫した。フローレット収量及び秀品率の高さに加え、生育が進んでも花蕾の締まりがよいことを基準に評価した結果、早生種の「おのころ」、中生種の「こんにちは」、晩生種の「こんばんは」が大花蕾生産に適していた(図)。また、同年、中晩生品種の「グランドーム」「ATS-206」「クリア」を供試し、標準の栽植密度(4,400株/10a)に対し、疎植栽培(3,400株/10a)の収量性について検討した。一株花蕾重は大きくなったものの、株数が少ないため10a当りフローレット収量も少なくなった(データ略)。

2021年、品種比較で選定した3品種を供試し、密植栽培(5,900株/10a)による増収効果を検

討した。3品種とも一株花蕾重に大差なく、秀品率も同等以上であった。また、フローレット加工時の歩留りもほぼ同等となり、密植による株数の増加に伴い10a当りフローレット収量は増加した(表)。

今後の方針

選定した品種は、青果用としても品質、収量は高く、県内ブロッコリー産地への情報提供により品種選定の参考にできる。

赤曾部 雅史(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2424)

※ブロッコリーの軸を取り除き小花蕾にばらして可食部のみにした状態(表紙写真参照)

表 栽植密度がフローレット収量に及ぼす影響

| 品種 | 栽植密度 | 一株花蕾重(g) | 秀品率(%) | フローレット加工時の歩留り(%) | フローレット収量(t/10a) |
|-------|------|----------|--------|------------------|-----------------|
| おのころ | 標準 | 531 | 94 | 60 | 1.4 |
| | 密植 | 500 | 100 | 60 | 1.8 |
| こんにちは | 標準 | 603 | 83 | 61 | 1.6 |
| | 密植 | 581 | 87 | 65 | 2.2 |
| こんばんは | 標準 | 623 | 71 | 57 | 1.6 |
| | 密植 | 633 | 100 | 58 | 2.2 |

t 検定により同一品種の栽植密度の違いにより n. s. は有意差なし、*は5%水準で有意差ありを示す

<耕種概要>播種:2021年8月5日、定植:9月5日、施肥条件:N30kg(基肥+追肥2回型)、栽植密度:うね幅130cm、2条植えの一定とし、標準は株間を35cm(4,400株/10a)、密植は株間を26cm(5,900株/10a)に設定

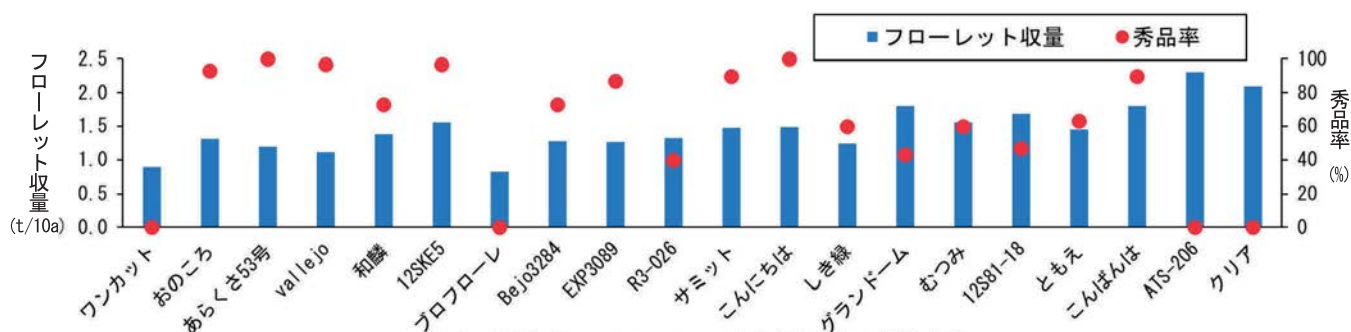


図 品種別のフローレット収量および秀品率

<耕種概要>播種:2020年8月5日、定植:9月8日、栽植密度:4,400株/10a、施肥条件:N30kg(基肥+追肥2回)